

「只見ユネスコエコパーク活動支援補助金事業」

「只見の仕事着文化継承 ～ユツコギワークショップ～」開催

ユツコギ
ワークショップ開催

ユツコギとは？

合同会社メーデルリーフ主催の「只見の仕事着文化継承（ユツコギワークショップ）」が、開催されました。

この事業は、「只見ユネスコエコパーク活動支援補助金」の採択を受けた事業で、只見町に古くから受け継がれてきた仕事着である「ユツコギ」を次の世代に伝えていくことを目的とした取り組みです。

まずワークショップに向けて、町内のユツコギや縞生地を集めるところから始まりました。使う人が少なくなっている中、多くの方の協力もあり、60本以上のユツコギや縞生地が集まりました。

第1回のワークショップは「ふるさと館田子倉」で開催され、新國道子さんを講師に招きユツコギの歴史や作り方、地区ごとの違いなどを学びました。その後、参加者は実際に試着したり、今後も使いつけていくにはどうすれば良いのかを話し合いました。

山仕事や農作業など仕事の際に着用されていた下半身に着用する仕事着のことです。上半身に着用するものは「シゴトシ」または「シゴトジバン（仕事襦袢）」と呼ばれていたそうです。

仕事をする際は、上半身は「シゴトシ」、下半身はユツコギを着用し、帯をしめて仕事をしていました。

呼び方の由来は、「雪漕ぎ（ゆきこぎ）」から来ているという説があります。また伊南川や只見川流域などの地域によって、「サルツパカマ」「ホソツパカマ」「カリアガリユツコギ」など呼び方は多岐にわたるそうです。

素材には木綿が主に用いられ、動きやすいように細く仕立てられています。冬期間は、太くゆったりしたものに仕立てて着用します。こちらは「ダフツパカマ」「ダフユツコギ」「ブタユツコギ」などと呼ばれていました。



▶ユツコギを試着する参加者



▶ユツコギの作りを確認する参加者



▶1本の反物が無駄なく使われ、ユッコギが作られていることを確認しました



▶解体しながらユッコギの作り方を確認しました



▶反物に見立てた手拭いでミニユッコギを作成



▶取った型は、新たなユッコギ作りに使われます



▶かわいいミニユッコギが完成しました

第2回ワークショップでは、ユッコギの型取りやミニユッコギ作りなどが行われました。
 参加者は、ユッコギが1本の反物から無駄なく作られていることを確認するなど、ものを大切に作る工夫と精神に感心していました。
 またワークショップ中では、実際にユッコギを作るためのデザインなどの検討も行われました。
 今後も只見町の貴重なユッコギを伝承する取り組みを進めていきます。

「ユネスコエコパーク活動支援補助金」

人間と自然との共生を実践するユネスコエコパークのまちづくりを推進するため、只見地域の自然環境、生物多様性の保護・保全とそれらを拠り所とした地域の伝統産業、生活・文化の継承、発展に資する活動に要する経費を補助するものです。(町内で事業をしている方が対象)

補助額

1事業主体あたり30万円を上限とします(10/10以内)

補助対象

- 自然環境、野生動植物の保護・保全事業
 只見BRの自然環境・野生動植物の保護・保全を目的とした取り組み
- 教育・人材育成事業
 只見BRを推進する人材の教育・育成を目的とした取り組み
- 持続可能な地域社会経済の発展事業
 只見BRの伝統的な生活文化の継承・発展、地場産業の育成を目的とした取り組みなど
- 「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業
 伝承産品の振興・向上、また技術伝承等を目的とした取り組み

詳細については、地域創生課ユネスコエコパーク推進係までご連絡ください。

問合せ先

地域創生課ユネスコエコパーク推進係
 TEL: 82-5220 Mail: tadamibr@town.tadami.lg.jp